

# 拾塵集（政弘）

螢

水くらき木陰にうすく見え初めて

夜になるままにそふ螢かな

螢火透簾

ともす火は程なく消えてこすのちに

螢みだるる風ぞすずしき

雨中螢

星清く照すほたるやさみだれの

空にしられぬ晴まなるらん

底蛭

ほたるかも菊咲く秋にあらねども  
星をつかぶる谷川の水

人の墓所へまかりけるに、蛭のとびければ

消えやらで猶なき玉やのこるらん  
蛭みだるる野べのふる塚

「国歌大観」より